

学校教育目標	「自分でできる(自主) みんなとできる(協働)」～主体的に学び、温かい人間関係を育む子どもの育成～ ○自ら学び、互いに高め合い、「知」を構築する力を育みます。(知) ○礼儀や規範意識を大切に、他者を思いやる豊かな心を育みます。(徳) ○自他の命を尊重し、心身ともに健やかな子どもを育みます。(体) ○地域を大切に、社会の一員として協働する姿勢を育みます。(公) ○コミュニケーションを大切に、様々な変化に柔軟に対応できる力を育みます。(開)			
	創立 149 周年	学校長 佐藤 正淳	副校長 神田 智昌	2 学期制 一般学級: 22 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 716 人 主な関係校: 山内中学校 中川西中学校 あざみ野中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	山内中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくり  コミュニケーション	山内中学校 山内小学校 新石川小学校 元石川小学校 美しが丘西小学校	○思いやりや感謝の気持ちを持ち、互いに尊重し合って生活できる子ども ○豊かに学び合い、社会の一員として自ら判断し、責任をもって行動できる子ども  ・「主体的な学びができる子どもを育てるための手立て・工夫」を取組目標に設定し、ブロック授業研等を通して情報共有をする。 ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の授業を積極的に参観する。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あったかハート」を共通言語として全ての教育活動を展開します。</li> <li>○自分のよさに気付くとともに、自分の生き方につながるチャレンジを続けます。</li> <li>○まち(社会)とのつながりや自分の将来とのつながりを考えた活動を推進します。</li> <li>○探究的な学びや体験活動等を通して、主体的・協働的な学びを推進します</li> <li>○定量的評価軸(横浜市学力・学習状況調査他)をもとにして、取組の運営改善を図ります。 (「自分づくり」「コミュニケーション」に係る評価と進捗管理)</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①児童が主体的に取り組むことの学びを創る。(日常的な情報交換、教科担任による教材研究、iPadの活用等)【通年】 ②授業研究(国語科)を通して、自分の考えをもち、伝え合い、学びを深め合う児童の育成を図る。【年3回】
担当 授業改善委員会	
徳 豊かな心	①児童自身が自己理解を深め、「自分づくりを進められる教育をデザインする。 ・自分の目標をもち、自己をふり返り、次の行動を起こす子どもの育成を進める。【毎月1回:自分づくりDay】 ・あいさつから始まる、気持ちの良い協働力の育成を進める。【通年】【あいさつ週間】
担当 児童指導・道徳部	
体 健やかな体	①一校一実践として、体育の授業の最初に俊敏性を高めるための運動に取り組む。【通年】 また、長期休み前に記録をとり、記録が伸びることを可視化し、運動に対する主体性を育成する。【年2回】
担当 体育部	
公 地域連携 未来を開く志	①地域学校協働本部の取組を軸に、地域社会や自己の未来につながる多様な学習機会を創出する。【通年】 ②生活科・総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の教育活動と地域社会とを関連付け、自分と社会とのつながりを実感できる学習を推進する。【通年】 ③地域を大切に、地域の一員として活動に参加しようとする態度を育成する。【通年】
担当 地域学校協働本部	
いじめへの対応	①いじめの早期発見、進捗管理のため、職員いじめ防止委員会の開催。【毎月】 定期的な職員研修の実施。【年5回】 ②児童会に「いじめ防止委員会」を設置し、各学級での「いじめについての話し合い」を設定するなど、児童のいじめ防止に対する意識を高める活動を推進する。【通年】 ③いじめの芽をキャッチするよう、児童アンケート及び児童との面談を実施する。【年2回】
担当 いじめ防止委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームでの授業実践【年 回】、及び校内研修を定期的に行い、教師としての力量を高める。 ②校務分掌にかかわる組織を適材適所で生かし、ボトムアップの検討、発信を推進する。【通年】 ③業務の平準化。全学年に専科の時間確保。職員室業務アシスタント等とのワークシェア。【通年】 ④毎週火曜日の「自分づくりDay(=宿題なし)」、水曜日の定時退勤(Noリターン)の推進。【毎週】
担当 教務	
特別支援教育	①ユニバーサルデザイン、合理的配慮等の職員研修【各年1回】を行い、誰もが安心できる学級づくりを行う。 ②児童理解研修を定期的に行い、困り感をもつ児童への理解を深めると共に、全職員で支援する。【通年・適時】 ③外部とのコンサルテーションをもったり、特別支援教室の体制を整えたりすることにより、個に応じた支援をする。 ④個別支援学級についての説明を一般学級で行い、相互理解を深める。【年度当初】
担当 特別支援コーディネーター	
児童指導	①児童指導上のポイントを職員間で共有しながら指導に当たれるよう、計画的に職員研修を行う。【毎月】 ②あったかハートな学校風土にするために、YPアセスメント等を活用した支援検討会を通して、関わる教職員が児童理解や学級の実態を共通に理解する。【適時】 ③毎月のあったかハートデーで横浜プログラムを活用した指導を継続的に実施し、社会的スキルの育成を図る。【毎月】
担当 児童指導・Gプロ	
GIGAスクール	①主体的に学ぶ方法の一つとしてiPadの活用方法を共有し、より良い活用について共有する。【通年】 ②学習の目標を達成するために効果的に学習アプリ等を活用していく。【通年】 ③適切な活用を促すために、情報モラル指導を行う。【年度当初&適時】
担当 GIGA委員会	
a15	a25
担当	